

慶應義塾大学大学院 文学研究科 修士課程

哲学・倫理学専攻 哲学分野

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

哲学・倫理学専攻（哲学分野）では、修士課程修了時に身につけているべき能力として以下のものを定め、かつ、学則に従って修了要件を満たし修士論文審査に合格した学生については、この能力を身につけた者と認め、修士（哲学）の学位を与える。

1. 修士論文のテーマに関連する領域について包括的で深い専門知識を有し、その領域の研究に貢献をすることができる。
2. 哲学の領域全般に関する高度な知識を獲得し、それに基づいて専門的なリサーチを展開し、その成果を発表できる。
3. 専門的な知識を通じて諸文化の歴史的、文化的特性を理解し、他者との交流を図り、重要な問題を認識し、それを解決するための議論や実践に資するリサーチ能力およびプレゼンテーション能力を身につけていることで、高度なリテラシーを備えた社会人、研究者、教育者として社会に貢献できる。

【カリキュラム・ポリシー】

哲学・倫理学専攻（哲学分野）では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 哲学特殊講義と哲学特殊講義演習の二種類の講義演習科目を設置するとともに、哲学原典研究の科目を開講することで、研究を展開するために必要な基礎的な思考力、および専門知識、リサーチ能力、一次資料分析能力、プレゼンテーション能力を養成する。
2. 修士論文の執筆を可能とするため、指定された指導教員が中心となって個別論文指導を行ない、研究テーマに関する知識を深めるとともに、高度なリサーチ能力と論述力を養う。また、専攻全体の修士論文報告会等を開催し、複数の教員、学生、研究者から多様な評価を得る機会を提供する。

【アドミッション・ポリシー】

哲学・倫理学専攻（哲学分野）修士課程では、次のような資質をもつ学生を求めている。

1. 卒業論文の執筆や専門科目の履修等を通じて自身の専門領域についての理解を深めるとともに、哲学の領域全般に関する基礎知識を有している。
2. 大学院において何をどのような方法で研究したいのかについて自ら考え、それを研究計画のかたちに適切にまとめられている。
3. 諸言語の一次資料および二次資料を正確に読むことのできる基礎的な読解力と、学術的な考えを正確に論じることのできる基礎的な表現能力を身につけている。
4. 修士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的に考えている。